

福島県地域活動団体 情報シート (2017年度)

設立年	2011年 11月	設立後	満6年	法人登記	2012年 12月		
法人格/ふりがな	法人格名 いわきほうしゃのうしみんそくていしつ(たらちね)						
団体名	認定特定非営利活動法人 いわき放射能市民測定室(たらちね)						
代表者氏名	織田 好孝			役職	代表理事		
活動拠点 所在地	郵便番号	971-8162					
	住所	福島県いわき市小名浜花畑町11-3 カネマンビル3F					
団体TEL	0246-92-2526		FAX	0246-38-8322			
URL	https://tarachineiwaki.org		メールアドレス	tarachine@bz04.plala.or.jp			
活動エリア	いわき						
活動分野(テーマ)	保健・医療・福祉の増進	社会教育の推進	まちづくりの推進	環境の保全	災害救助	人権の擁護・平和の推進	子どもの健全育成
	科学技術の振興	消費者の保護	中間支援				
団体概要 (定款・会則による 団体のミッション 等)	原発事故等の被ばく者に対して、被ばくの影響を調べ、また放射線被ばくをより低く抑えるために、食品等の放射能汚染を測定する機器を、市民自らの手で。配備し、市民自ら測定する事業並びに、その他必要とされる事業を行い、市民の命と健康を守ることを目的とする。						
直近3年の主な 事業 (実績)	○放射線の測定事業(全身放射能測定・食材放射能測定・土壌・資材放射能測定) ○測定データの公開(ホームページ、Facebookの公開・たらちね通信の発行・専門家による勉強会・講演会の開催) ○放射線から人々の健康を守る事業(「沖縄・球美の里」子ども保養プロジェクトいわき事務局・たらちね甲状腺検診プロジェクト) ○ベータ線放射能測定						
今年度主な事業 (取組み)	○放射線の測定事業(全身放射能測定・食材放射能測定・土壌・資材放射能測定) ○測定データの公開(ホームページ、Facebookの公開・たらちね通信の発行・専門家による勉強会・講演会の開催) ○放射線から人々の健康を守る事業(「沖縄・球美の里」子ども保養プロジェクトいわき事務局・たらちね甲状腺検診プロジェクト) ○ベータ線放射能測定 ○「たらちねクリニック」開設						
役員・会員	役員	理事/監事	10/2人	正会員	69人	個人/団体	67/2
前年度収入(決算)	53,127千円						
地域へのメッセージ	子どもたちの未来を守る」という原点を忘れず、測定や検診業務もさらに精進してまいりたいと思います。						

◆いろいろお伺いしました

a. 震災から7年を過ぎ、今後への展望

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故の収束と近隣地域への汚染状況の検証がなされるのがいつになるか見通しはたたない状況である。その中にあっても、この問題をしっかり考え検証を継続することは、私たちの未来のエネルギー問題を考え構築していくうえで、とても重要な基礎になることであり、子どもたちの未来のために、今の私たちができることをしなければならぬ。それをできるところまで継続していくことが必要であると考えている。

b. 理事会や事務局機能、会計・監査機能の整備

理事10名/監事1名/事務局2名/会計(事務局の他に外部の会計事務所が入り会計の確認を行っている。)/監査は監事1名と会計事務所により実施するとともに、定期総会において会員のみなさまから会計のチェックを受けている。

c. 資金集め(会費・寄付)や自主事業収入について

全国からの寄付金、受取助成金等により経費の約95%をまかなっている。放射能汚染被災地では、放射能測定が日常の安全を守る上で欠かせないものであり、安価で測定しているため、そこからの収益は見込めない。人々が安心して健康に生きるために必要な社会的インフラとして活動し、問題の共有をしてくださるみなさんと共に歩みながら今後の活動につなげていきたいと考えている。

d. 法人格の選択及び認定NPO法人・公益法人取得について

2012年12月にNPO法人格を取得した。また、2015年6月には活動の公益性が評価され認定NPO法人となった。

e. 活動への福島の復興の影響

見えない・におわない・感じない放射能汚染は身体健康だけでなく、心の健康や人間関係の分断もまねいた。その中で、見えない放射能を可視化し、問題について議論するための共通の言語としての測定値を示すことは、身体健康の予防になると同時に心の分断も解決に導くものである。原発事故という大きな荷物を背負い、さらには子どもたちにその荷物を背負わせなければならない私たちがであるが、放射能汚染の実相を検証し、子どもたちの健康を見守る活動を続けることは、背負った問題から逃げずに向き合いながら復興を進める姿でもある。地に足のついた復興を目指すために、そして子どもたちの健やかな成長のために尽くしていきたいと考えている。